

横浜市

防災施策の現状



日本共産党横浜市議団 みわ智恵美

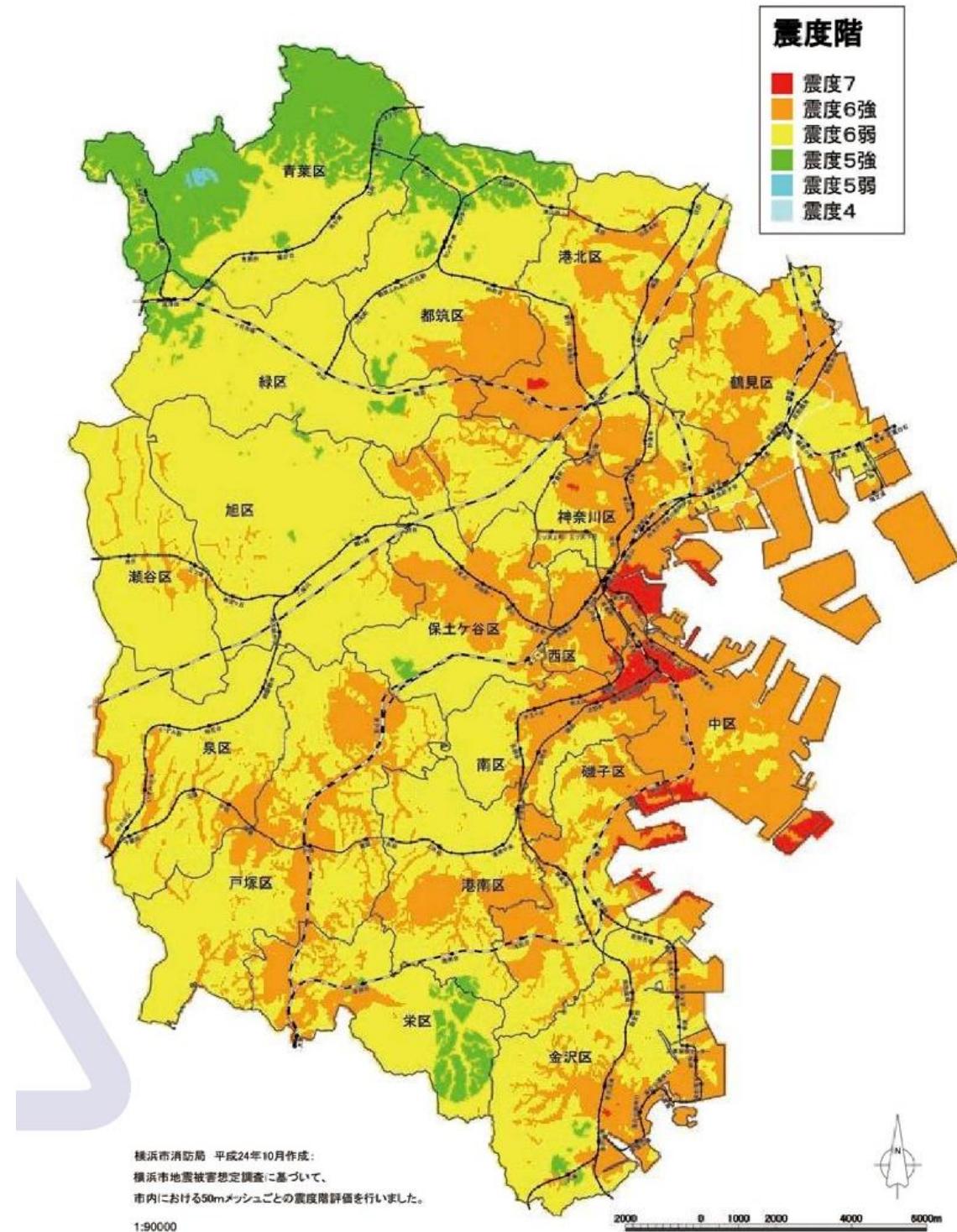
もし大地震が来たら…

被害想定(元禄型)

帰宅困難者	45万5000人(平日正午)
避難者	発災後57万7000人・ 28日後避難場所生活者21万8000人
建物	全壊3万4669棟・半壊11万3719棟
火災	7万7700棟焼失(冬18時)
人	死者3260人・負傷者2万1700人
水道	39万9000世帯断水(1日後)
下水	7万2900世帯機能支障(1日後)
電気	26万6000世帯停電(1日後)
都市ガス	116万世帯供給停止(直後)
緊急輸送路	183区で支障
鉄道	274か所で被害・28区間浸水
経済直接被害	11.7兆円

深刻な被害が予想されます

元禄型関東地震被害想定 地震マップ:市全域



図・数値出典：横浜市防災計画より

写真 能登半島地震の被災地 しんぶん赤旗より

元禄型関東地震における区別の建物、人的被害及び地域防災拠点数

区別の被害と地域防災拠点

項目	現況棟数	建物被害		人口	人的被害			避難所数
		揺れ、液状化、崖、津波	焼失棟数		死者数	負傷者数 (重症含む)	避難者数	
鶴見区	60,100	14,870	7,886	272,000	273	1,771	58,283	31
神奈川区	51,000	13,111	11,802	233,000	383	1,892	58,870	25
西区	18,100	7,519	8,013	94,900	321	1,780	31,905	12
中区	30,100	12,268	11,279	146,000	561	3,440	58,370	14
南区	47,200	12,891	11,795	196,000	436	1,565	51,926	25
港南区	47,700	7,835	998	221,000	92	1,063	25,061	31
保土ヶ谷区	48,800	9,156	3,753	207,000	170	1,199	30,066	27
旭区	65,100	6,245	887	251,000	52	744	19,064	37
磯子区	36,700	9,234	4,958	163,000	183	1,152	30,664	21
金沢区	49,700	11,315	2,738	209,000	163	1,194	44,565	26
港北区	67,700	11,643	6,467	329,000	262	1,851	53,404	29
緑区	36,700	2,638	156	178,000	19	341	9,591	22
青葉区	61,200	1,141	36	304,000	5	147	7,834	40
都筑区	38,300	2,414	53	201,000	21	319	8,735	27
戸塚区	66,300	11,673	2,395	274,000	142	1,508	41,112	35
栄区	32,100	3,577	206	125,000	32	444	12,454	20
泉区	45,600	6,264	3,339	156,000	100	742	22,455	22
瀬谷区	34,900	4,397	891	127,000	48	548	12,948	15
合計	837,000	148,000	77,700	3,690,000	3,260	21,700	577,000	459

※ 数値の表示について：合計値は有効数字3桁として、上から4桁目を四捨五入している。

このため各区の数値の合計欄の値と一致しない場合がある。

【参考】減災目標達成状況（令和4年度末見込み）

令和3年度「横浜市地震防災戦略進捗状況等調査」において、避難者数は、577,000人から約217,900人減少となっています。

**被害想定に
見合った対策が
できているのか
議会で追及!**

明らかにになった課題

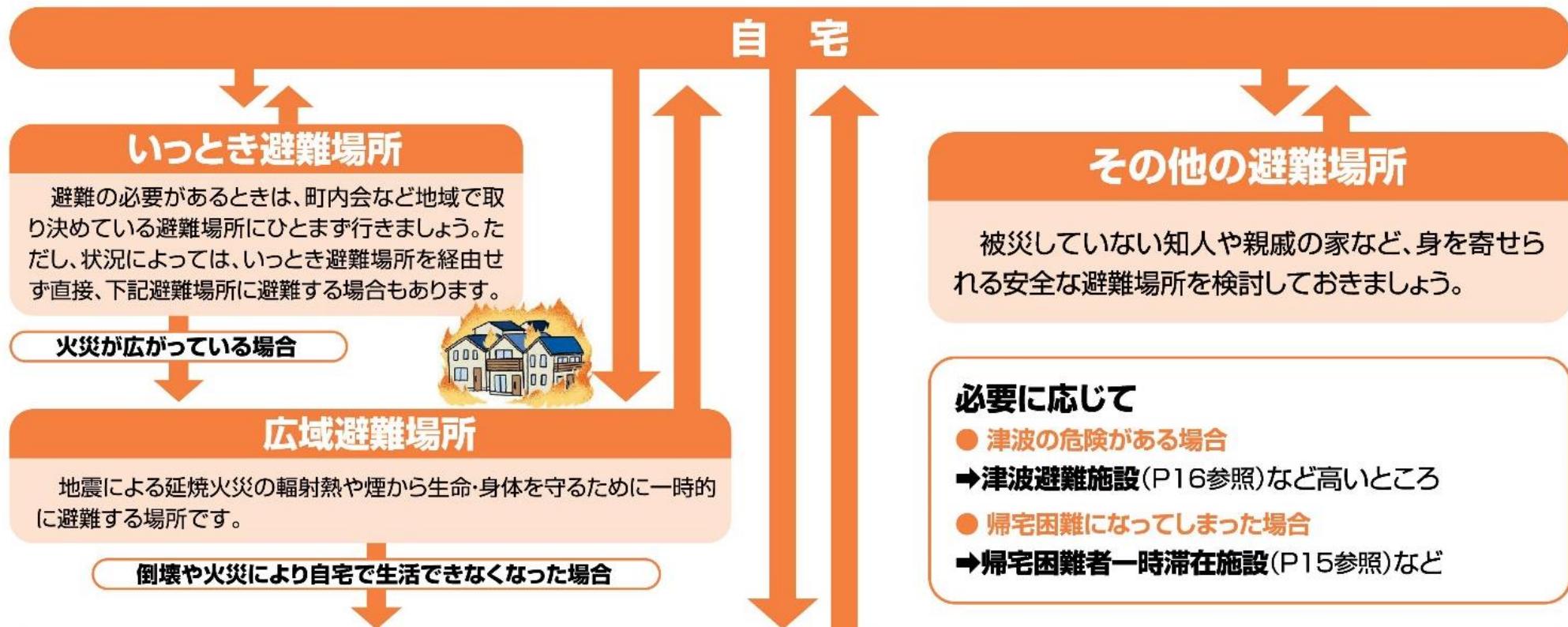
道路



- ・災害対応車両が入れない
狭い道路が **505キロ**

- ・緊急輸送路
交通支障区間数 **183か所**

発災時に避難する場所



地域防災拠点 市内459か所

市内1箇所でも、震度5強以上の地震を観測した場合に開設します。避難生活を送る場所です。あらかじめ、市立学校等から、本市が指定しています。

避難者が一時的に生活するための最低限の食料・水を備蓄するとともに、救助活動に必要な資機材などを整備しています。

地域防災拠点の主な役割

- ① 避難所
- ② 最低限の水と食料の備蓄場所
- ③ 安否情報・被害情報・救出・救援物資情報の収集・伝達場所

- 地域防災拠点の運営→P18参照
- 地域防災拠点にある資機材の取り扱い(横浜防災ライセンス講習会)→P36参照

自宅に居住でき、避難の必要がない被災者(在宅被災生活者)や地域防災拠点以外で被災生活を送る避難者も、地域防災拠点で、物資や情報が得られます。

専門職(保健師)などの判断をもとに、区役所が受け入れを決定

福祉避難所

高齢者や障害者などのうち、避難生活で特別な配慮が必要である人のための二次的避難所です。



ご注意ください

地域防災拠点(周辺道路を含む)への**自家用車の乗り入れは禁止**です。自家用車での避難は、緊急交通車両等の通行の妨げになるので、徒歩で避難できる方は**原則徒歩で避難**しましょう。

また、車中泊避難はエコノミークラス症候群(P18参照)などの健康被害の原因となります。

地域防災拠点の課題①

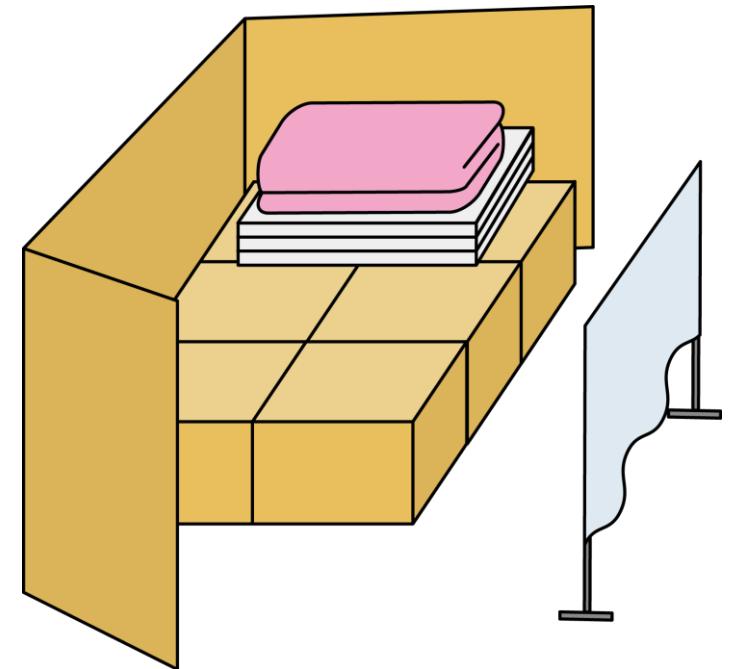
周辺地域全体の災害 時拠点になっていない

- ①食料や水の備蓄品の量が少ない
- ②地域への情報提供の訓練がされていない

地域防災拠点の課題②

プライバシーと健康の問題

- 段ボールベットとパーテーション
ンセット 6セット
- テント 2基
- 毛布 240枚



対象1000人に対してこれだけ

地域防災拠点の課題③

女性視点の設営や運営

- ・取り組みがはじまったばかり
- ・地域防災拠点の運営員会、市・区の防災委員会に、意識的な女性配置がされていない



地域防災拠点の課題④

食事の問題

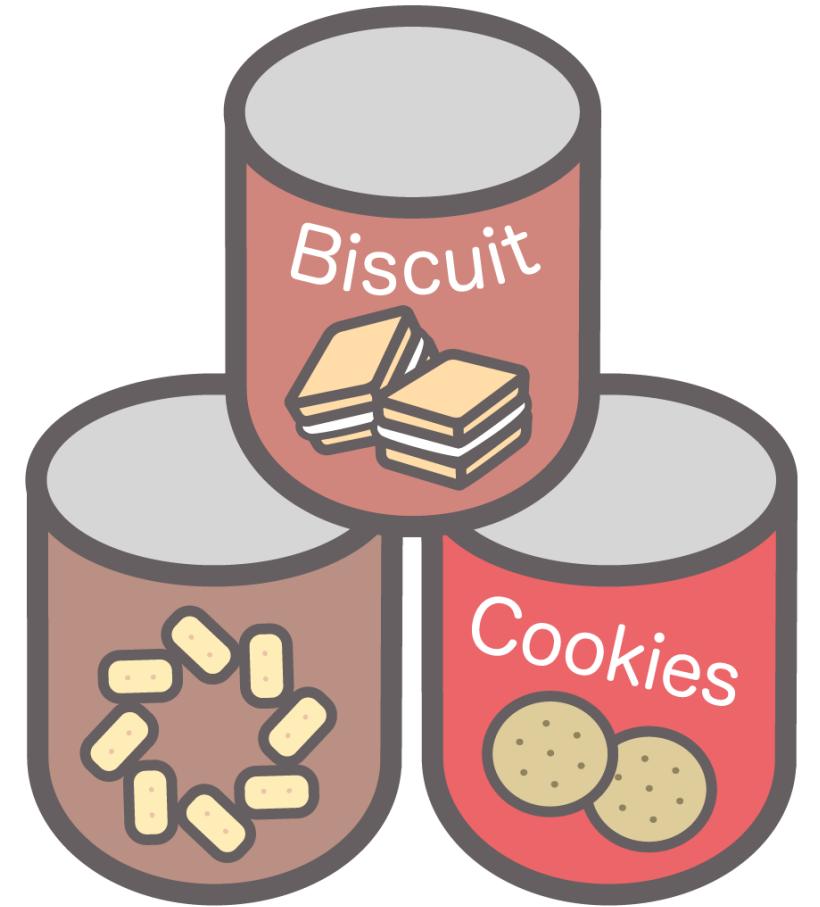
- ・カセットコンロ 1台のみ
- ・給食設備が現状では使用できない
市の見解…給食室の器具が専門的で一般の人が扱えない。衛生基準があって開放が難しいと説明
- ・家庭科室の活用ができるかを検討中
と回答



地域防災拠点の課題⑤

飲食料品の備蓄品

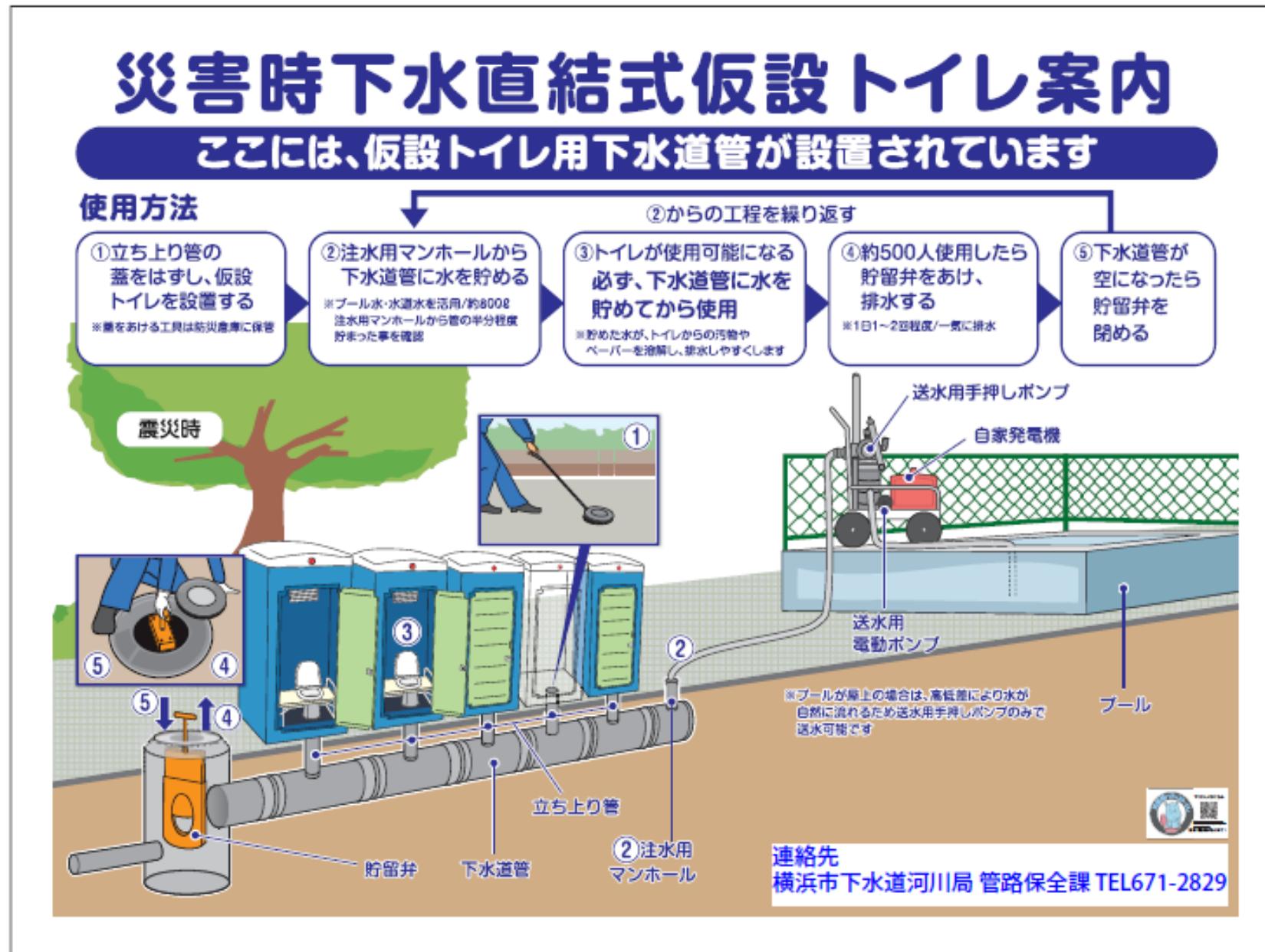
- ・1000人分、2000食
クラッカー、パン、缶詰
- ・液体ミルク 200mmℓ24本



地域防災拠点の課題⑤

トイレはどうなってる？

- 下水道直結型仮設トイレ 5基
- 簡易トイレ 6基
- トイレパック 5,000セット



地域防災拠点の課題⑤

電源やネット環境は？

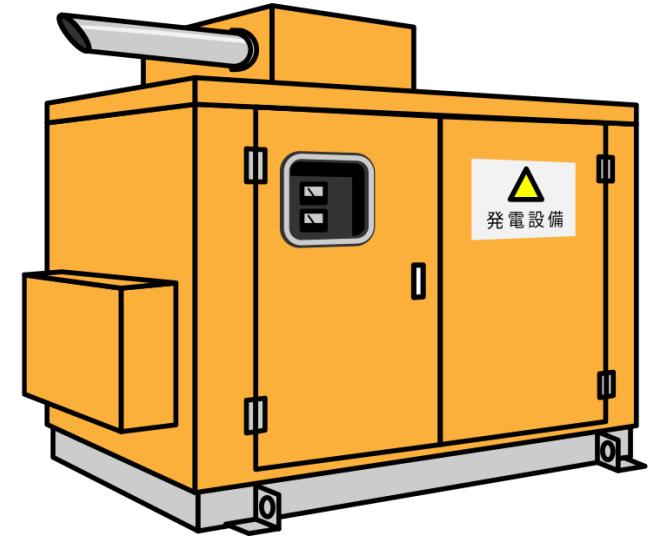
- ・電源は学校にあるもの

ライフラインが絶たれたら…

- ・Wi-Fi設備学校にあるギガスクール

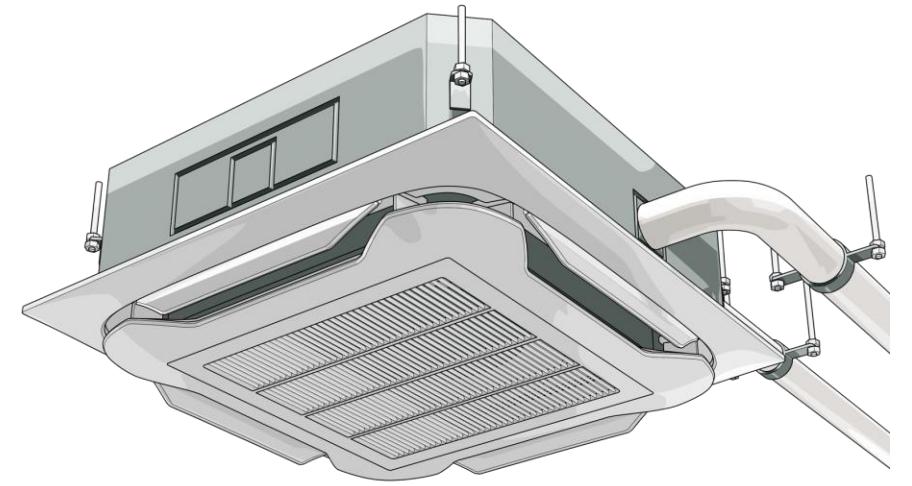
で配備されているものを使用

80人程度の対応



地域防災拠点の課題⑤

冷暖房は？



地域防災拠点にもなっている横浜市立小中学校506校の体育館への整備は2023年9月で約18%
あと6年で100%整備する目標。
前倒しの検討も。

地域防災拠点の課題⑤

ペットの問題

- ・同行避難については、各地域防災拠点で検討するものとしている
- ・ゲージを買うなどの市としての予算はゼロ
- ・区では取り組んでいるところあり



地域防災拠点の課題⑤

福祉避難所の課題

- ・市の要援護者の想定は約17万人。そのうちの約1万6千人への対応のみ。
- ・避難の流れにも課題

現在は、要援護者も地域防災拠点にまず避難⇒次に保健師などの判断で福祉避難所

へ移動

これは現実的なもの？

地域防災拠点の課題⑤

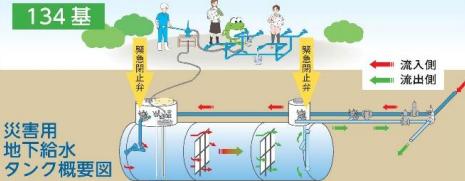
水の確保は？

- ・災害用地下給水タンク(常に新鮮な水が流れている)は、
全市で134基 (港南区では7基)

災害用地下給水タンクが無い防災拠点は…

- ・耐震給水栓 全市48か所
- ・配水池(1週間分) 市に22か所
- ・緊急給水栓 全市358基

→耐震化された水道管に臨時の給水装置を取り付け
給水する施設。発災後、**4日以降に設置される**

飲料水確保の場所	目印	
ご家庭 企業	—	備蓄している飲料水
災害時給水所	 標識	●災害用地下給水タンク 134基  災害用地下給水タンク概要図
	 のぼり	●配水池 22カ所  西谷浄水場3号配水池(保土ヶ谷区) (上部は運動施設として貸付中)
	 のぼり	●緊急給水栓 358基  緊急給水栓概要図
	 看板	給水車  ●耐震給水栓 21カ所 [令和5年度までに全48カ所設置予定] 

地域防災拠点の備蓄品

(一拠点あたりの配備数量)

令和5年10月1日時点で、地域防災拠点に一律で配備している備蓄品の一覧です。
各区や各拠点が独自に配備している品目は含まれていません。

食料	水缶詰	2,000缶	クラッカー (アレルギー対応ライスクッキー含む)	1,000食	保存パン	1,000食
	おかゆ	460食	スープ	220食	粉ミルク	20缶 (うちアレルギー対応1缶)
生活 資 機 材	生理用品	425枚	高齢者用紙おむつ	210枚	乳幼児用紙おむつ・紙パンツ	1,350枚
	ほ乳器	40個	灯油式かまどセット 又はガスかまどセット	1台	LEDランタン	80台
	テント	2基	アルミブランケット	240枚	毛布 ※1	240枚
	保温用シート	150枚	多言語表示シート	1式	コミュニケーションボード	1式
	ビブス (橙色、青色)	各10枚	デジタル移動無線子機・延長コード	1基ずつ	特設公衆電話 電話機・コード	2基ずつ
	防災ラジオ	2台	トランシーバー	2台	組立式仮設トイレ	2基
	簡易トイレ便座	6基	トイレパック	5000セット	トイレトペーパー	192巻
	下水直結式仮設トイレ (ハマッコトイレ) ※2	5基	受水槽用蛇口 ※3	1式	給水用水槽 (1 t)	1個
救助 ・ 救 護 資 機 材	ガソリン式発電機	3台	ガス式発電機 (カセットボンベ12本付)	3台	投光器	5台
	コードリール	5台	ヘルメット	10個	ハンドマイク	2個
	担架	10本	金属梯子	1本	つるはし	5本
	大ハンマー	5本	スコップ	5本	てこ棒	5本
	大パール	5本	ワイヤーカッター	5本	大なた	5本
	のこぎり	5本	掛矢	2個	リヤカー	2台
	グラウンドシート	10枚	松葉杖	5組	ロープ	5本
感 染 機 症 材 対 策	サージカルマスク	10箱 (500枚)	小さめマスク	6箱 (300枚)	消毒液 (ハイター)	2本 (1.2ℓ)
	雑巾	10枚	使い捨て手袋	700枚 (100枚×7袋)	泡ハンドソープ	10本
	アルコール消毒液	40本 (20ℓ)				

- ※1 拠点によっては、240枚のうち一部を方面別備蓄庫等に保管している場合があります。
 ※2 令和5年10月1日時点で設置されていない拠点が一部あります。
 ※3 受水槽が設置されていない拠点には配備されていません。

他の課題

断水のリスク

- ・市内の水道管耐震達成率全口径31%、大口径52%
- ・水道管の耐震化は年110キロペース。
このままでは40年かかる

他の課題

防災訓練

これまでの震災でも、多くの地域住民が参加する防災訓練が数多く実施されてきた地域では、避難がスムーズに実施された報告があるが…



- 地域防災拠点に想定されている1000人規模での避難訓練は一度もされていない。
- 数千数万人規模の利用があるホールなどでの、実際の利用者との避難訓練されていない。
- 浸水想定地域にある地下鉄での乗客含めた訓練はされていない。

他の課題

災害時防災拠点となる区役所の浸水対策

- ・津波・洪水による浸水想定区域内の
8区役所の非常用電源が地下にある
対策本部の役割果たせるのか不安

他の課題

防災情報の発信

- ・防災行政無線 199基 主に津波・河川洪水対応
- ・よこはまテレビ・プッシュサービス(緊急地震速報などが出された際に、自動的にテレビが起動するサービス 音声を映像で緊急情報を発信する
端末代28,600円は全額補助。その後の自己負担は550円/月)

なぜ非常時の備蓄が 呼びかけられているのか

非常持出品、備蓄品リスト

非常持出品として
必要最低限に用意すべきもの

水(持出品として缶やペットボトルで用意しておきましょう。)

ゼリー飲料などの簡易食料

紙やプラスチック製の皿・コップ

帽子、ヘルメット

トイレパック、洗面用具、タオル、ティッシュ、ウエットティッシュ、
マスク

常備薬(災害に備えるため、多めにもらっておく)、お薬手帳

携帯電話(スマートフォン)、携帯ラジオ、懐中電灯、携帯電話充電器、
軍手、レジ袋、筆記用具、メモ帳、ホイッスル、電池

現金(小銭も)、障害者手帳、マイナンバー通知カード、
本人確認書類(運転免許証、保険証、マイナンバーカード)



備蓄品として
用意しておくべきもの

水(一人1日3リットルの水が必要といわれています。家族の人数分を
缶やペットボトルで用意しておきましょう。)

インスタント・レトルト食品、缶詰(缶切り不要のもの)、
乾パンなどの保存食

割ばし・フォーク・スプーン、缶切り、ナイフ、鍋、カセットコンロ

上着類、下着類、毛布、傘などの雨具

トイレットペーパー、石けん、シャンプー、除菌スプレー、生理用品

風邪薬、胃薬、傷薬、目薬、消毒薬、ガーゼ、包帯、ばんそうこう、
三角巾

使い捨てカイロ、マッチ、ライター、ポリタンク、スリッパ、上履き、
ロープ、ガムテープ、ビニールシート、敷物、ごみ袋、ラップ、
アルミホイル、予備のメガネ

銀行などの通帳、印鑑、有価証券類

その他(小さな子どもがいれば乳幼児用品など)

日本共産党の提案①

- ・防災拠点とは、文字通り、避難してきた方々だけでなく、周辺地域全体の災害時の拠点の役割を果たせるようにしていく。
- ・災害から立ち上がる、災害関連死など生まない安心して過ごせる場所にする。
→TKB48(48時間以内にトイレ・キッチン・ベットを整えること)を目指す

日本共産党の提案②

- ・道路などハード面は、予算増と人員増で早急な改善を。
- ・水道は耐震化を前倒しし、リスクの高い長距離管路計画は見直しを。

日本共産党の提案③

- ・福祉避難所は、当事者が通いなれたところを設定し、必要数の確保を。
- ・市民が参加するリアルな想定での避難訓練を。
- ・市民一人ひとりに、街の隅々まで情報が行き届く取り組みを。